



## 九州観光第七弾

### 鹿児島県編

九州南部に位置する鹿児島県。北に宮崎県と接する霧島山地と熊本県と接する出水山地があり、南には大隅・薩摩の両半島があります。さらには、南西諸島を始めとする605もの島々もあり、多彩な自然環境に恵まれています。文化遺産では、16世紀に伝わった鉄砲をはじめ、キリスト教の西洋文化、朝鮮半島からの薩摩焼などが有名。明治維新、西南戦争、第2次世界大戦時の基地などの歴史の舞台としても知られています。鹿児島県は、多くの人を惹きつけてやまない魅力を持っています。

### 各地の観光

霧島屋久国立公園は、昭和9年に指定を受けた日本で初めての国立公園です。霧島温泉郷の塩浸温泉は、京都伏見の寺田屋事件で九死に一生を得た坂本龍馬が西郷隆盛に勧められて新妻おりょうを伴って湯治をしたところ。二人は大阪天保山から蒸気船に乗り、長崎を経て鹿児島・浜の市港に到着。霧島神宮を参拝後、日当山温泉、塩浸温泉、硫黄谷温泉で傷を癒し、犬飼の滝に遊び、高千穂峰に登っています。「塩浸には十日許りも止まりて遊び、谷川の流れてに魚を釣り、ピストルをもちて鳥をうつなど実におもしろかりし」と龍馬は綴っています。冬期には韓国岳、高千穂峰は樹氷も見られ、高千穂峰山頂の天の逆鉾は龍馬とおりょうが悪戯に引き抜いたと言われています。この龍馬とおりょうの旅は、日本最初の新婚旅行と言われています。



毎年10月から翌年3月にかけて、出水市には天然記念物のナベヅル、マナヅルを中心とする約1万羽が飛来し、越冬します。その飛来数は世界一。ヅルは160年ほど前から飛来しているようですが、鶴保護管理員の又野末晴さんの努力により、人との温かい交流が保たれています。筆者も12年前、取材で又野さんを訪ねました。当時74歳の又野さんは、とても元気で、ある感動的な話を聞かせてくれました。

とある冬の事。電線事故で羽を痛めた雄のナベヅルを、相ヅルの雌が必死で励ましていたそうです。又野さんは雄ヅルを治療しましたが、北帰航の三月まで回復しませんでした。

他のツルが飛び立って行く中、雄は五月になっても回復しません。その間、雌ツルは雄のケージに向き合ったままで、回復を待っていたそうです。しかし、渡り鳥の本能からか、とうとう単独で飛び立って行きました。ところが、次の冬。その雌ツルが、第一陣で雄ツルの許へ帰ってきたのです。その頃には雄も回復しており、夫婦で冬を越すことができました。二羽の夫婦は、次シーズンにも飛来し、又野さんと再会しました。その時は、二羽の子ツルを伴っていたそうです。



鶴が飛来する出水市

## 離島の魅力

世界遺産の屋久島へは鹿児島港からジェットfoil「トッピー」で1時間45分。九州の最高峰宮之浦岳（1935m）の他、千メートル級の山が40峰あり、海のアルプスともいわれています。林芙美子が、屋久島は1ヶ月に35日雨が降ると「浮雲」に書いているように、多雨が樹齢千年以上の屋久杉を育てています。観光は屋久杉自然館からスタートするのがお勧めです。展示室には樹齢1600年の屋久杉の株を中心に、屋久杉の特徴や林業史の解説がされています。そこで島の全体像をつかんでからヤクスギランドに入るのが一般的なコース。ここは標高千〜千300mにあり、9kmの散策道に30分、50分、80分、150分のコースがあります。静かな原生林の散策は、森林セラピーの効果があります。吊り橋をわたり、滝を愛で、わき水でのどを癒す。その美味しさは格別です。都会をはなれて、新たな活力を吸収する時間を過ごすことができます。



ユネスコの世界自然遺産・屋久島の縄文杉

九州新幹線が開通して新大阪と鹿児島中央が3時間45分で結ばれました。鹿児島、宮崎、熊本3県とJRや、観光関係者が「極情の旅」と銘打って今年いっぱいPRを展開しています。鹿児島県大阪事務所の職員の方は、「この機会に鹿児島をはじめ南九州を満喫して欲しい」と仰っていました。

鹿児島県大阪事務所

大阪駅前第1ビル9階

電話06・6341・5618

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞